

蒔かれた竜の歯は戦士となって相争う

神話や伝説は遠い過去の記憶を背負っている。それらは詩と真実のあわいに有り、単なる作り話とは言えない。そして更には歴史へと繋がって行く。古代のギリシャにおけるテーバイの始祖カドモスの不思議な運命と、その一族を襲う悲劇の物語は、我々の興味をそそって止まない。



(カドモスの竜退治)

舞台はミュケナイ文明の時代である。フェニキアの王子カドモスは「牝牛が倒れた所に都を作れ」というアポロンの神託に従うことにしたが、ある所でアレス神の飼う竜を殺した事により、その子孫にまでもつねに不運が付き纏う事になる。ミュケナイ時代はいわば「東方化」の時代でもあり、様々な発掘品からもテーバイ

がフェニキアはもちろん、クレタやシリアやメソポタミア地方などとの交流が盛んであった事が伺える。カドモス自身がギリシャに文字を齎したとの説がある所以である。ソフォクレスのギリシャ悲劇「オイディプス王」では、王が民衆に「テーバイの人々よ、古きカドモスの子孫等よ」と呼び掛けるところから始まる。テーバイ伝説が作られたその時代的背景を探りたい。



世界古代文明の謎を探るシリーズ (84回) 「テーバイ王カドモスと一族の悲劇」

主催 アストライアの会

協力 日本ギリシャ協会 日本セカンドライフ協会

講師 佐藤育子さん 日本女子大学学術研究員

期日 令和6年4月22日(月) 午後2時～5時

会場 としま区民センター会議室 401 (池袋駅東口)

費用 お茶代込み参加費二千円

連絡先 松原和雄 TEL/FAX 049-258-3218



(デルフォイのアポロン神殿跡)



(カドモスと竜)



(アルテミスとアクタイオン)



(アレス神)